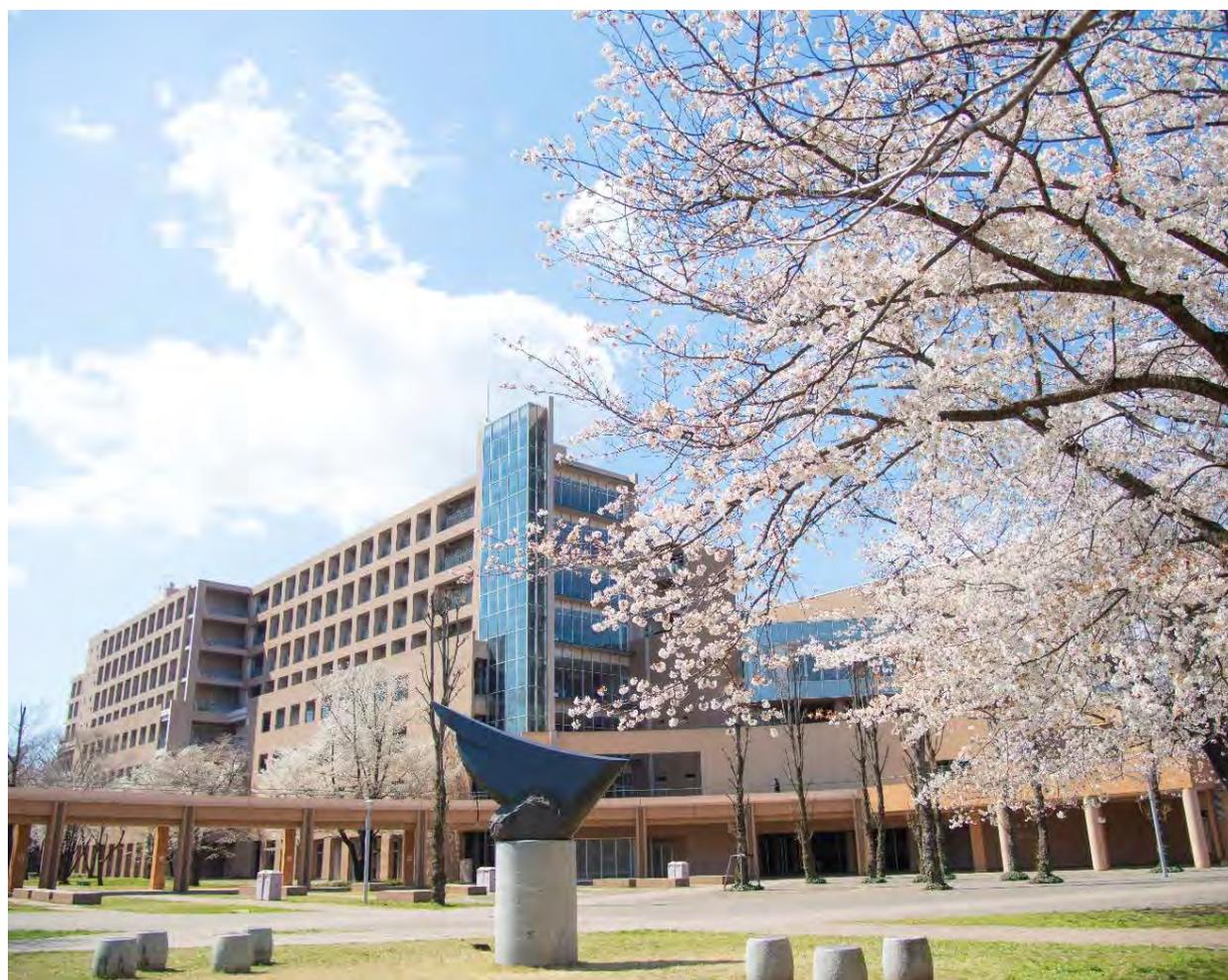


# 環境報告書 2024

報告対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日



東京外国語大学  
Tokyo University of Foreign Studies

TOP MESSAGE	1
[大学概要]	
東京外国語大学のミッション	2
学生数	2
教職員数	2
建物一覧	2
教育研究組織	3
運営組織	3
[環境パフォーマンス]	
過去5年におけるエネルギー使用量	4
過去5年における温室効果ガス排出量	5
過去5年における水道使用量	5
過去5年におけるコジェネレーションシステムによる発電及び排熱の回収	6
過去3年における紙使用量	7
過去3年における産業廃棄物排出量	7
グリーン購入の状況	8
[カーボンニュートラルに向けて]	
計画・取組	9
過去のCO2排出量と今後の削減イメージ	9
[環境配慮への取り組み]	
マイボトル用浄水給水機の増設について	10
エネルギーの見える化機能の追加	11
照明器具による省エネルギー対策	12
主電気室の変圧器更新（トップランナー）	12
高効率空調機による省エネルギー対策	13
太陽光発電設備による創エネルギーの取組	14



# TOP MESSAGE

東京外国語大学は、その長い歴史の中で、世界の言語、文化、そして社会に関する研究と教育を推進してまいりました。現在、地球規模の課題が増加する中で、私たちの使命は、多様性を尊重し、持続可能な共生社会の実現に貢献することにあります。この使命を果たすため、私たちは環境問題をはじめとする地球規模の課題に積極的に取り組んでいます。

地球温暖化は、今や誰もが無視できない緊急の課題です。気候変動の影響は、自然環境だけでなく、人々の生活基盤や健康、さらには社会全体にまで及び、深刻な影響を与えています。これに対処するため、私たちは持続可能な未来を築くために、継続的な努力を続けています。

日本政府が2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目標に掲げている中、本学もこの目標に貢献すべく、「教職員・学生と協働で地球温暖化対策を推進し、大学が使用するすべての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力へ変換（生産又は調達）することを目指す。」ことを宣言し、様々な取り組みを行っています。照明器具のLED化や老朽化した空調機器の高効率機への更新などによる設備の省エネ化、太陽光発電設備の整備による創エネの推進、エネルギーの「見える化」による省エネ意識の啓発など、カーボンニュートラルに向けた取り組みを積極的に展開しています。また、学生が多く集う場所にウォーターサーバーを設置することで、プラスチックごみの削減にも努め、環境に優しい持続可能な社会の実現に向けた活動も行っています。

さらに、これまでどおり、「自然エネルギー大学リーグ」や「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」への参画を通じ、各大学や産業界との最新情報を共有し、また学生団体「たふえね」の活動など、若い世代の力を生かしながら地球温暖化対策を推進してまいります。

今後も、全ての生き物が安心して暮らせる未来を目指し、多様性を尊重しながら、カーボンニュートラルと環境負荷低減に向けた努力を続けてまいります。本学の環境活動に対する皆様のご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

国立大学法人 東京外国語大学  
学長 林 佳世子



# 大学概要

## ■東京外国語大学のミッション

### 多文化共生に寄与する東京外国語大学

東京外国語大学は長きにわたり、世界の言語とそれを基底とする文化、世界諸地域や国際的な問題について、研究と教育を行ってきました。令和5年に建学150周年を迎え、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点として、その役割をさらに明確にします。

多言語多文化化する日本と世界で、人々の共生に寄与する人材、そして地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指します。また、大学として、共生社会の実現に向けた社会貢献事業に取り組みます。

## ■学生数（2024年5月現在）

### 学部在籍者数

学部	1年	2年	3年	4年	総計
言語文化学部	347	377	389	575	1,688
国際社会学部	366	373	406	591	1,736
国際日本学部	79	86	91	106	362
計	792	836	886	1,272	3,786

### 大学院在籍者数

大学院総合国際学研究科	1年	2年	3年	計
博士前期課程	120	175	-	295
博士後期課程	44	37	123	204
計	164	212	123	499

## ■教職員数（2024年5月現在）

役員等	10名	
教員	250名	(役員4名含む)
職員	143名	(役員1名含む)
計	403名	

## ■建物一覧

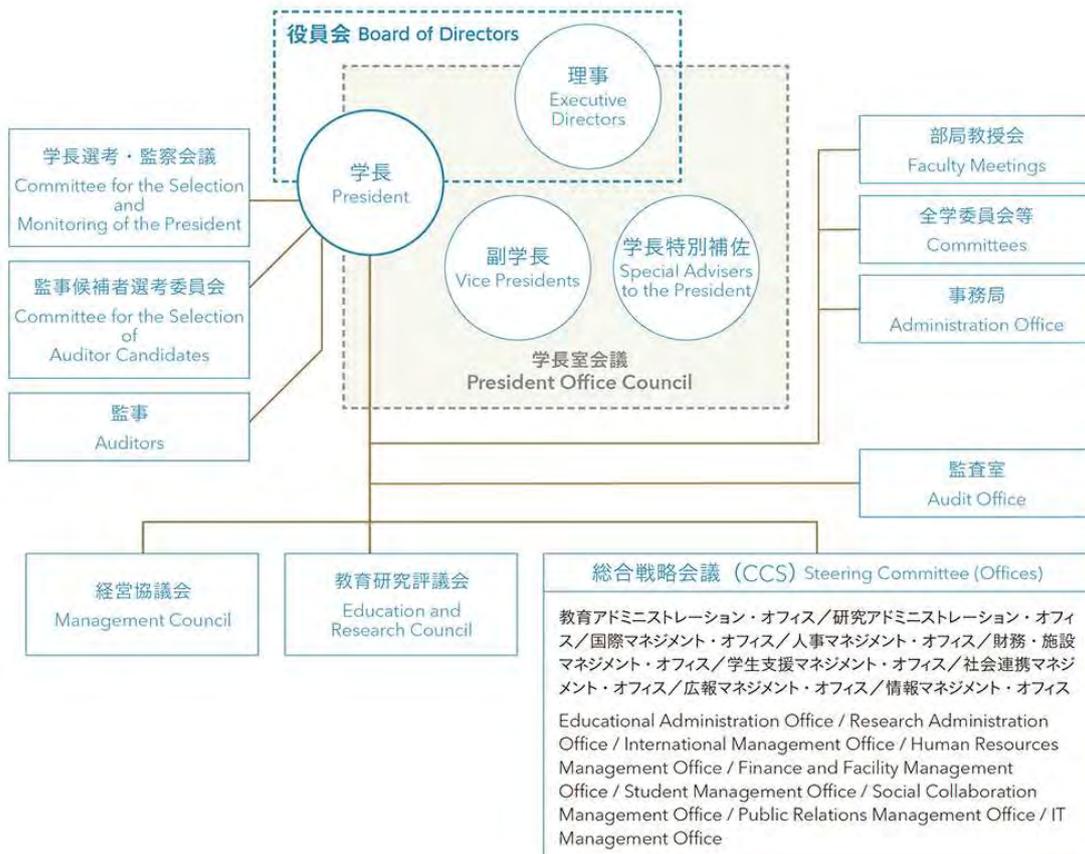
No	建物名称	建物構造	延床面積（㎡）	完成年
1	研究講義棟	SRC8-1	28,076	2000
2	附属図書館	RC4	6,820	2000
3	大学会館	RC2	2,770	2000
4	保健管理センター	RC1	458	2000
5	車庫	RC1	107	2000
6	屋内運動場	RC5-1	5,720	2001
7	アジア・アフリカ言語文化研究所	SRC8	7,610	2001
8	本部管理棟	RC5-1	3,927	2002
9	弓道場	RC1	198	2002
10	器具庫	RC1	240	2002
11	留学生日本語研究センター棟	SRC6	5,510	2003
12	国際交流会館（1号館）	SRC7-1	3,270	2004
13	国際交流会館（2号館）	SRC6	2,798	2006
14	アゴラ・グローバル	RC3	2,949	2010
15	国際交流会館（3号館）	RC8	5,045	2013

# 大学概要

## ■教育研究組織

学部教育組織	言語文化学部 School of Language and Culture Studies	学内研究組織	国際関係研究所 Institute of International Relations
	国際社会学部 School of International and Area Studies		国際日本研究センター International Center for Japanese Studies
	国際日本学部 School of Japan Studies		現代アフリカ地域研究センター African Studies Center
大学院教育組織	総合国際学研究科 Graduate School of Global Studies	教育支援組織	南アジア研究センター South Asia Studies Center
	博士前期課程 Master's Programs		TUFS地域研究センター TUFS Area Studies Center
	博士後期課程 Doctoral Programs		TUFSフィールドサイエンスコモンズ TUFS Field Science Commons
	共同サステナビリティ研究専攻 Joint Doctoral Program for Sustainability Research		ワールド・ランゲージ・センター World Language Center
予備教育組織	留学生日本語教育センター Japanese Language Center for International Students	研究支援組織	LINGUA テストセンター LINGUA Test Center
教員組織	大学院総合国際学研究院 Institute of Global Studies		英語学習支援センター English Learning Center
	大学院国際日本学研究院 Institute of Japan Studies		CEFR-J 推進室 CEFR-J Office
	世界言語社会教育センター World Language and Society Education Center		教育情報化支援センター Multimedia and Computer-Aided Education Support Center
大学附置組織	アジア・アフリカ言語文化研究所 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	学生支援組織	教育情報化支援室 Educational Information Support Office
	情報資源利用研究センター Information Resources Center		オンライン教育支援室 Online Learning Support Team
	フィールドサイエンス研究企画センター Field Science Center		留学支援共同利用センター TUFS Student Mobility Center
大学附属組織	附属図書館 Library	社会連携等組織	アカデミック・サポート・センター TUFS Academic Support Center
	保健管理センター Health Care Center		国際メディア情報センター TUFS Media Center
	総合情報コラボレーションセンター Information Collaboration Center		国際教育支援室 International Education Support Office
学内共同利用組織	多言語多文化共生センター Center for Intercultural Studies	学内研究組織	学際研究共創センター Center for Transdisciplinary Research, Networking and Dialogue
	ハラスメント相談室 Harassment Consultation Office		グローバル・キャリア・センター Global Career Center
	語学研究所 Institute of Language Research		ボランティア活動スペース Volunteer Action Space
	総合文化研究所 Institute of Transcultural Studies		学生相談室 Student Counseling Room
海外事情研究所 Institute for Global Area Studies	海外事情研究所 Institute for Global Area Studies	総合戦略会議 (CCS) Steering Committee (Offices)	TUFSオープンアカデミー TUFS Open Academy
			大学文書館 TUFS Archives
			東京外国語大学出版会 TUFS Press
			オンライン日本語教育センター Online Japanese Education Center

## ■運営組織



# 環境パフォーマンス

## ■過去5年におけるエネルギー使用量

本学は平成27年度まで東京都環境確保条例に定められる大規模事業所(※)の指定を受け、CO<sub>2</sub>排出の総量削減義務が生じていました。その後エネルギー使用量が条例の基準を下回ったことから、平成28年には大規模事業所の指定が解除され、その後は横ばい状態にあります。

使用しているエネルギー種別は電力・都市ガスとなっており、2023年度のエネルギー使用量は、感染症による行動制限の緩和が進んだことにより、学内施設の利用が増え、前年度比2%の増となりました。

※大規模事業所：原油換算した使用エネルギーが3ヶ年度連続で1,500kL以上となる事業所

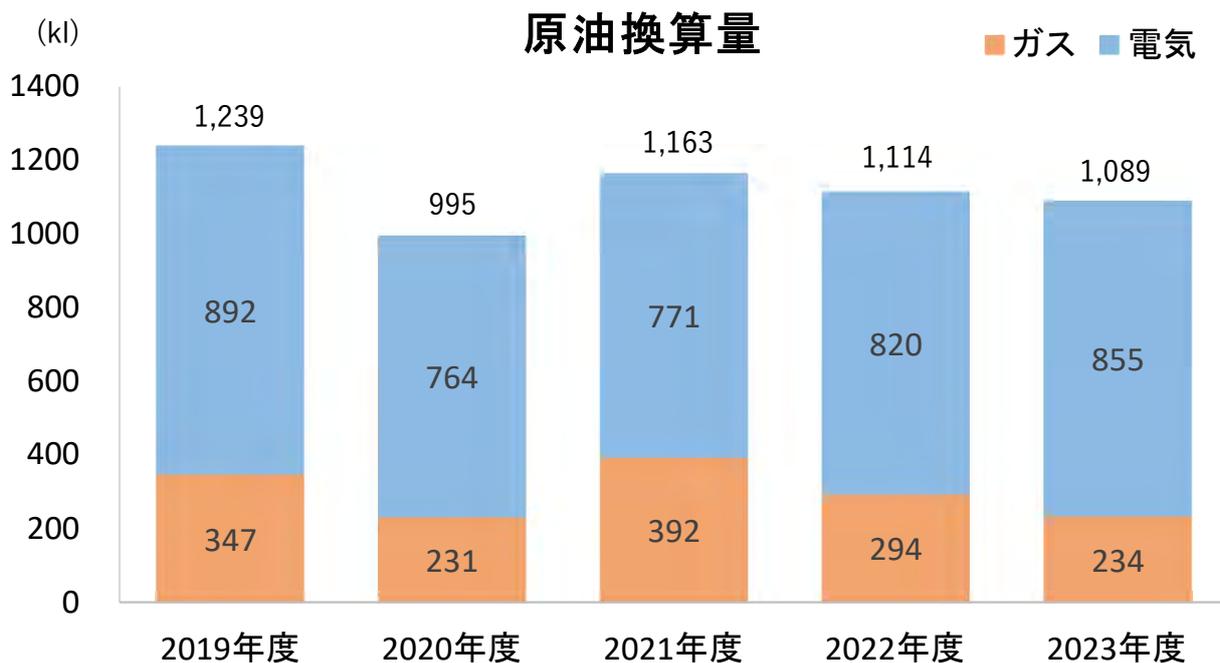
<エネルギー使用量の推移>

エネルギー種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力 (kWh)	3,543,234	3,031,077	3,063,870	3,257,784	3,397,572
都市ガス (m <sup>3</sup> )	298,883	199,141	337,560	253,077	201,360

<原油換算量>

(kl)

エネルギー種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力	892	764	771	820	855
都市ガス	347	231	392	294	234
計	1,239	995	1,163	1,114	1,089



# 環境パフォーマンス

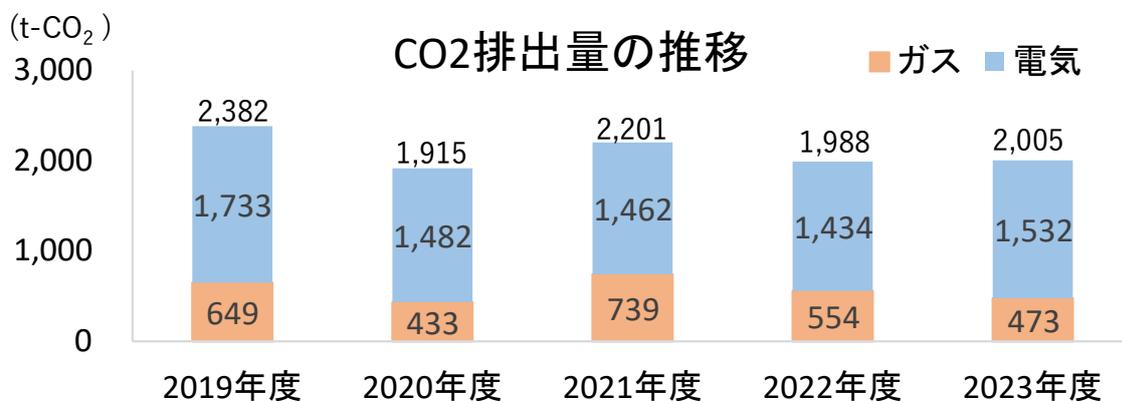
## ■過去5年における温室効果ガス排出量

東京都環境確保条例により大規模事業所となっていた2006年度においては、3,071 t-CO<sub>2</sub>の排出量がありましたが、過去5年においては概ね2,100 t-CO<sub>2</sub>前後にて推移しています。

<CO<sub>2</sub>排出量の推移>

(t-CO<sub>2</sub>)

エネルギー種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力	1,733	1,482	1,462	1,434	1,532
都市ガス	649	433	739	554	473
計	2,382	1,915	2,201	1,988	2,005



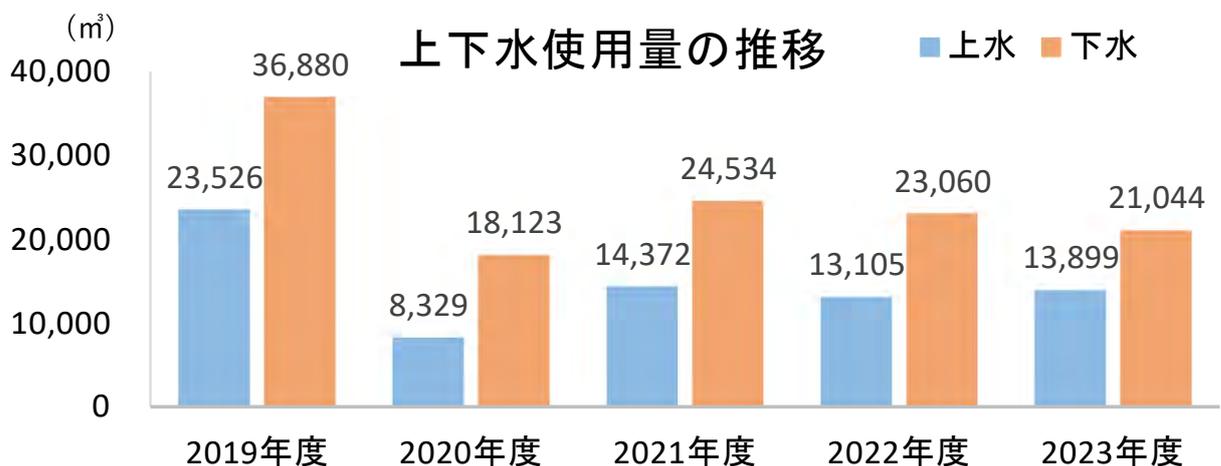
## ■過去5年における水道使用量

2023年度の上水道使用量について、前年度比3%減となりました。

なお、雨水をトイレの洗浄水として再利用しているため、上水より下水使用量が多くなっています。

<上下水道使用量の推移>

種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
上水 (m <sup>3</sup> )	23,526	8,329	14,372	13,105	13,899
下水 (m <sup>3</sup> )	36,880	18,123	24,534	23,060	21,044



# 環境パフォーマンス

## ■ 過去5年におけるコジェネレーションシステムによる発電及び排熱の回収

370kW(389kVA)の定格出力を有したガスエンジン式のパッケージ形常用発電機(×2台)が研究講義棟の地階に設置されており、発電時に発生する排熱をガス焚きの吸収式冷温水発生機で利用して省エネを実現する、コジェネレーションシステムが冷暖房期に稼働しています。

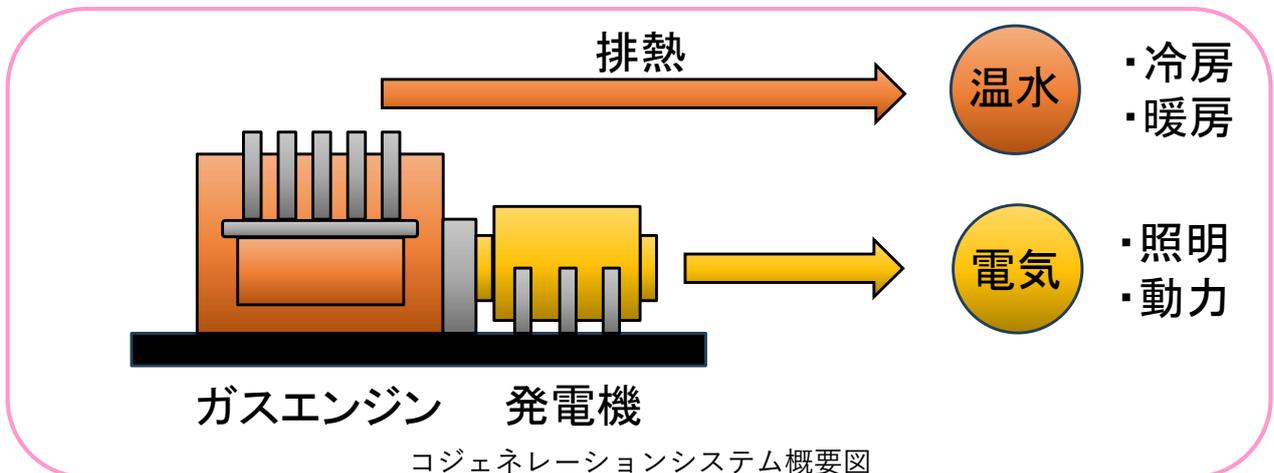
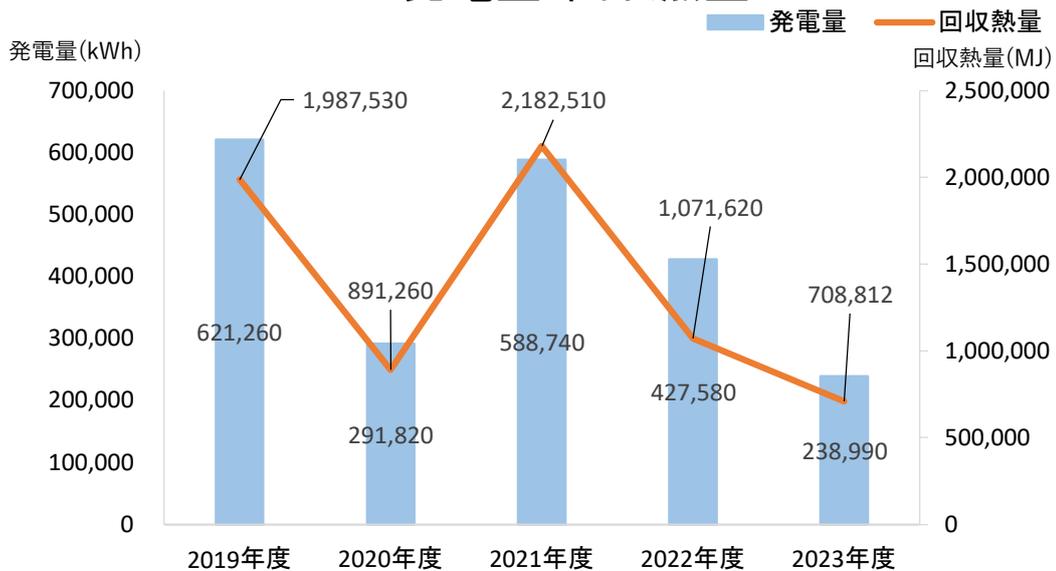
なお、コジェネレーションシステムによる過去5年における発電量及び排熱回収熱量は以下のとおりです。

2023年度は発電機の運転調整等により、発電量や排熱回収量は前年度に比べて低い数値となりました。また、回収熱量については同年度に不具合があったことから値が小さくなっています。

<コジェネレーションシステムによる発電・排熱回収実績>

エネルギー種別	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電力(kWh)	621,260	291,820	588,740	427,580	238,990
回収熱量(MJ)	1,987,530	891,260	2,182,510	1,071,620	708,812

### 発電量・回収熱量



# 環境パフォーマンス

## ■過去3年における紙使用量

本学では古紙資源のリサイクルに貢献する「リサイクルPPC」を使用しています。過去3年の使用量は以下のとおりです。

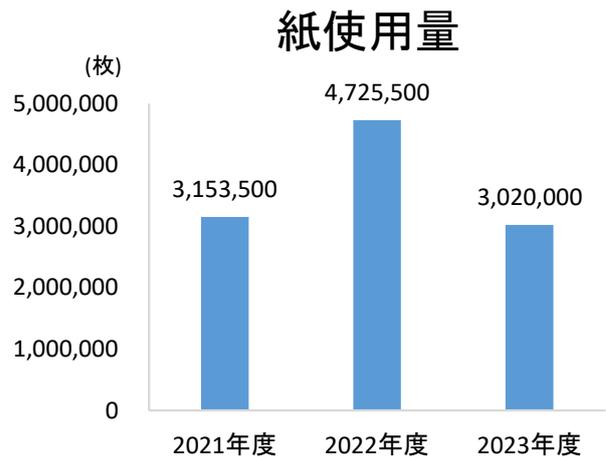
2023年度はWEB会議、ペーパーレス化推進などの要因で2022年度の使用量に比べて少ない数値となりました。

<再リサイクルPPC用紙使用量の推移>

2021年度		
	箱数	枚数
A3	34	51,000
A4	1,169	2,922,500
B4	7	17,500
B5	65	162,500
計	1,275	3,153,500

2022年度		
	箱数	枚数
A3	327	490,500
A4	1,603	4,007,500
B4	45	112,500
B5	46	115,000
計	2,021	4,725,500

2023年度		
	箱数	枚数
A3	130	195,000
A4	1,016	2,540,000
B4	24	60,000
B5	90	225,000
計	1,260	3,020,000



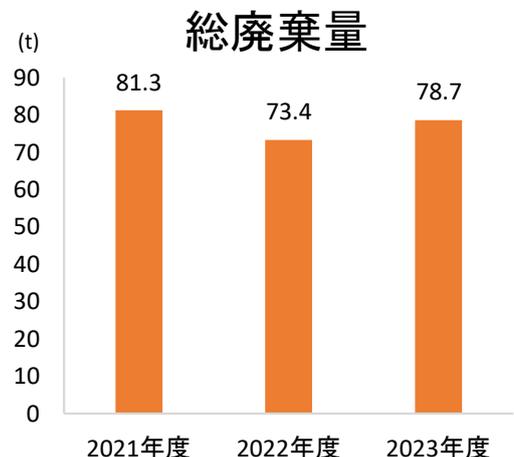
## ■過去3年における産業廃棄物排出量

過去3年の産業廃棄物排出量は以下のとおりです。

2023年度の排出量は2022年度と比較して若干増加となりました。

<産業廃棄物排出量の推移>

種別	2021年度	2022年度	2023年度
産業廃棄物 (t)	81.3	73.4	78.7



# 環境パフォーマンス

## ■ グリーン購入の状況

環境物品等の調達に当たって、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとし、環境物品等の判断基準を超えるものを調達すること、また、グリーン購入法適合品が存在しない場合についても、エコマーク等が表示され、環境保全に配慮されている物品を調達することについて配慮しました。

### ※グリーン購入法：国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律

国等の機関にグリーン購入（製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること）を義務付けるとともに、地方公共団体や事業者・国民にもグリーン購入に努めることを求めた法律。

### <令和5年度特定調達品目調達実績(物品)>

分野	①目標値	②総調達量	③特定調達物品等の調達量	④特定調達物品等の調達率 =③/②
紙類 (kg)	100%	24,835	24,835	100%
文具類 (個・冊・本・枚)	100%	9,908	9,908	100%
オフィス家具等 (脚・個・台・連)	100%	145	145	100%
画像機器等 (個・台)	100%	612	612	100%
電子計算機等 (個・台)	100%	456	456	100%
オフィス機器等 (個・台)	100%	732	732	100%
移動電話等 (台)	100%	1	1	100%
家電製品 (台)	100%	17	17	100%
エアコンディショナー等 (台)	100%	33	33	100%
照明 (個・台)	100%	120	120	100%
インテリア・寝装寝具 (個・台・点・枚)	100%	253	253	100%
その他繊維製品 (点)	100%	1	1	100%
役務 (件)	100%	378	378	100%
ごみ袋等 (枚)	100%	5,730	5,730	100%

■ 令和5年度における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要  
[https://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/kankyohairyo\\_r5.pdf](https://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/kankyohairyo_r5.pdf)

■ 令和5年度における環境物品等の調達実績の概要  
[https://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/chotatsu\\_gaiyo\\_r5.pdf](https://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/chotatsu_gaiyo_r5.pdf)

# カーボンニュートラルに向けて

## 目標

教職員・学生と協働で地球温暖化対策を推進し、大学が使う全ての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力へ転換（生産又は調達）することを目指す。

## 計画・取組

### ■再生可能エネルギーの活用に向けた取組

#### (1) 太陽光発電等の導入の推進

設置可能な建築物屋上等に太陽光発電設備を設置することを旨とする。

- ・アゴラ・グローバル（約94kw）、研究講義棟（約20kw）、屋内運動場（45kw）

※全体約159kw（数値は2021年7月調査・検討による）

#### (2) 新築・既存建物大規模改修における整備

本学が新築、既存建物大規模改修（内外装全体改修程度）においては、太陽光発電設備設置を推進する。

### ■電力の調達や機器の購入・使用に当たっての取組

#### (1) 再生可能エネルギー電力調達の推進

2030年度までに本学で調達する電力を再生可能エネルギー電力とすることを目指す。なお、太陽光発電設備設置やLED照明への更新、教職員・学生における省エネ活動等においてエネルギー使用削減に努め、調達する電力量の更なる削減を図っていく。

#### (2) LED照明の導入

主要な施設のLED照明導入割合を100%に推進する。

#### (3) 省エネルギー型機器の導入等

エネルギー消費の多いパソコン、コピー機等のOA機器及び、電気冷蔵庫等の家電製品等の機器について、省エネルギー型のものへの切り替えを推進する。

※上記内容については、2021年度の計画・取組

### ■学生団体の活動“たふえね”

本学、教養科目のひとつである。「環境・エネルギー問題の動向と展望」を2021年春学期に受講した学生のうち、環境問題や省エネ・再エネに関し活動すべく、有志を中心に学生団体“たふえね”が立ち上がった。大学の正式なサークルとして、2022年春に認定され、活動としては、自然エネルギー大学リーグへの学生会員への入会・参加や他大学生との情報交換、昼休みに音楽団体と共演による在学生への呼びかけ、また教室の照明消灯を促すステッカー作りを自らデザインを考え作成する等、積極的な活動を行っている。

現在10数名の学生有志で活動しており、今後活動の輪を広げ、本学約4,300名の学生へも波及していくことで、省エネに対する意識や環境問題への取り組みが全学的に進められることが期待できる。

### ■建築物の建築、管理等に当たっての取組

#### (1) 建築物における省エネルギー対策の徹底

- ・建築物を新築、大規模改修する際は、省エネルギー対策を徹底し、温室効果ガスの排出の削減等に配慮したもものとして整備する。
- ・高効率空調機、LED照明等を可能な限り幅広く導入し、温室効果ガスの排出の少ない設備の導入を図る。
- ・冷暖房の適正な温度管理を図る。（冷房の場合は28度程度、暖房の場合は20度程度）

#### (2) 新しい技術の導入

- ・高いエネルギー効率や優れた温室効果ガス排出削減効果などを確認出来る技術を用いた設備、あるいは、エネルギーについても、導入可能性について検討を行い推進する。

## 過去のCO2排出量と今後の削減イメージ



## 環境配慮への取り組み

### ■ マイボトル用浄水給水機の増設について

2022年度に引き続き、2023年6月に水道水を活用する環境負荷の低い浄水給水機を附属図書館2階リフレッシュコーナーに1台設置しました。※2023年3月に研究講義棟1Fのガレリアへ計2台設置済み。

浄水給水機を設置することにより、ペットボトル等のプラスチックごみの排出量削減と持続可能な社会の形成に向けた取組を行っています。



ペットボトルからマイボトルへ



浄水給水機



附属図書館2F

浄水給水機設置場所

# 環境配慮への取り組み

## ■ エネルギーの見える化機能の追加

令和5年度に実施した中央監視設備更新工事により、電気使用量に加えガス使用量とCO2排出量の見える化を実施しました。

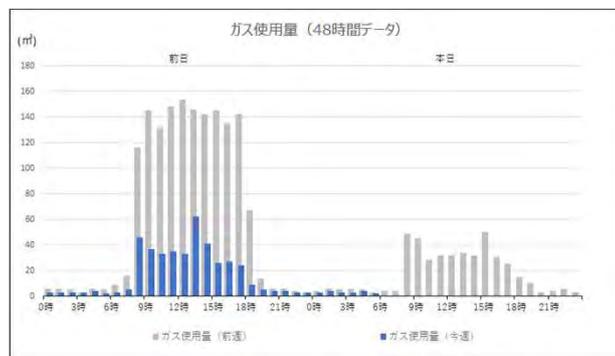
・下記のURL（大学公式HP）に電力やガスの使用状況がグラフ化されており、使用エネルギーの把握と省エネ対策、省エネ意識の啓蒙に役立てています。

<<https://www.tufs.ac.jp/abouttufs/outline/eco/demand.html>>

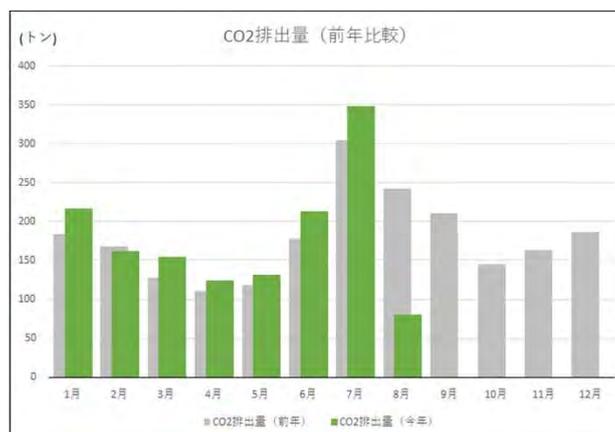
### ・ 電気使用量（1時間単位）



### ・ ガス使用量（1時間単位）



### ・ CO2排出量（月単位）



## 環境配慮への取り組み

### ■施設整備における省エネルギー対策

#### ①照明器具による省エネルギー対策

省エネルギー対策として、照明器具のLED化を計画的に進めています。2023年度は研究講義棟の5階から8階の照明器具改修工事を契約し、約1150台（府中キャンパス全体の約8%）の照明器具をLED化します。これにより2024年度には、府中キャンパスのLED照明の整備率は約70%になる予定です。



研究講義棟照明LED化(ラウンジ)



研究講義棟照明LED化(演習室)

#### ②主電気室の変圧器更新

研究講義棟への給電に係る変圧器が老朽化したことによる更新実施。最新のトッランナー基準製品に更新したことで効率的な電力消費が可能となった。  
※トッランナー基準：省エネ法に基づいて設定された基準で、各種機械器具のエネルギー効率を向上させるためのもの。具体的には、最もエネルギー効率が優れているもの（トッランナー）の性能を基準として、それを超えるように新製品を開発することを目指すもの。



研究講義棟電気室(更新後の変圧器)

# 環境配慮への取り組み

## ③高効率空調機による省エネルギー対策

- ・工事箇所：アジア・アフリカ言語文化研究所3階マルチメディア会議室及び共同研究室等  
留学生日本語教育センター棟1階、2階教室及びさくらホール等

老朽化した空調機を改修し、より高効率な空調機を導入することで省エネルギー化を図りました。



アジア・アフリカ言語文化研究所 屋内機



アジア・アフリカ言語文化研究所 屋外機

～直近の空調設備改修工事(予定含む)～

	建物	改修年度 (予定含む)	代表的な部屋
①	アジア・アフリカ言語文化研究所	2023	3階マルチメディア会議室・共同研究室等
②	留学生日本語教育センター棟	2023	1階、2階教室・さくらホール等
③	研究講義棟	2024	1階講義室・2階事務室等

# 環境配慮への取り組み

## ④太陽光発電設備による創エネルギーの取組

創エネルギーの取組として太陽光発電設備を2009年度に留学生日本語教育センター棟(発電出力：30kW)、2021年度に附属図書館(発電出力：30kW)、2023年度にアゴラ・グローバル(発電出力：40kW)に設置しました。

2024年度には、アゴラ・グローバルのⅡ期工事としてさらに40kWの出力を有する太陽光発電設備を増設予定です。



留日センター棟屋上太陽光発電設備

～2023年度太陽光発電再生可能エネルギー利用率～



①留学生日本語教育センター棟



②③附属図書館・アゴラ・グローバル



附属図書館屋上太陽光発電設備

・太陽光発電設備の稼働状況

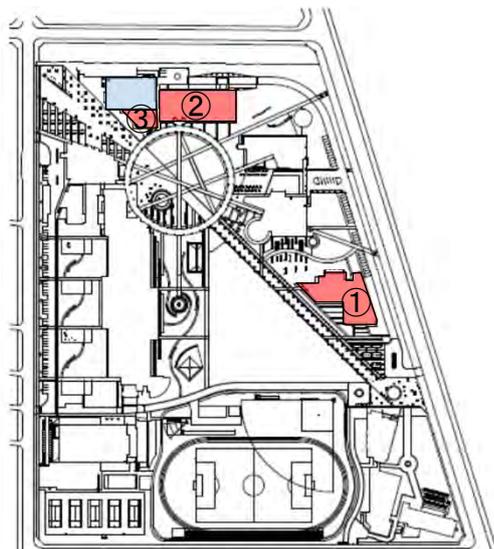
- ①留学生日本語教育センター棟屋上(2009年度設置)
- ②附属図書館屋上(2021年度設置)
- ③アゴラ・グローバル屋上(2023年度設置)
- ④アゴラ・グローバル(Ⅱ期)屋上(2024年度完成予定)

稼働設備

今後稼働予定設備(増設工事中)



アゴラ・グローバル太陽光発電設備



～太陽光発電設備配置図～

	設置場所	設置年度	発電出力
①	留学生日本語教育センター棟	2009	30kW
②	附属図書館	2021	30kW
③	アゴラ・グローバル	2023	40kW
④	アゴラ・グローバル(Ⅱ期)(予定)	2024	40kW



本報告書の対象範囲

- ・報告対象組織 国立大学法人 東京外国語大学
- ・報告対象期間 2023年4月1日～2024年3月31日

東京外国語大学 2024年度版 環境報告書

発行年月 令和6年（2024年）10月

問い合わせ先 国立大学法人東京外国語大学 総務企画部 施設企画課

TEL 042-330-5141 FAX 042-330-5420

Eメール shisetsukikakuka@tufs.ac.jp

大学ホームページ <https://www.tufs.ac.jp/>